

IPM実践指標(大豆)

分類	管理項目	管理ポイント	チェック欄		
			昨年度の実施状況	今年度の実施目標	今年度の実施状況
予防	圃場及び周辺の管理	湿害回避のため弾丸暗きよ等排水対策を行う。			
		土壌改良資材の施用を行う。			
	健全種子の導入	種子更新を行う。			
	雑草対策	播種時期に応じた適正な播種量とする。			
		水稲との輪作をおこなう。			
土壌伝染性病害対策	水稲との輪作をおこなう。				
判断	病害虫発生予察情報等の確認	病害虫防除所が発表する発生予察情報や普及指導センター等が出す病害虫に関する情報を入手し、発生状況を確認する。			
	気象状況の把握	気象情報を把握し、適切に防除を実施する。			
	フェロモントラップ調査	地域ごとにフェロモントラップの設置により、ハスモンヨトウなどの発生状況を把握する。			
	病害虫の発生状況の把握	定期的にはほ場を見回り、病害虫の発生状況を観察及び確認する。			
防除	ハスモンヨトウ・カメムシ対策	ほ場周辺での発生及びほ場への飛び込みを減らすため、畦畔及びほ場周辺の雑草地の除草を行う。			
	ハスモンヨトウ対策	白変葉の除去を行う。			
	雑草対策	中耕培土により雑草の発生を抑制する。			

IPM実践指標(大豆)

分類	管理項目	管理ポイント	チェック欄		
			昨年度の実施状況	今年度の実施目標	今年度の実施状況
防除	農薬の使用全般	十分な薬効が得られる範囲で最少の使用量となる最適な散布方法を検討した上で使用量・散布方法を決定する。			
	剤の選択	薬剤感受性の低下を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。			
		天敵に影響の少ない薬剤を選択する。			
		化学農薬に対する感受性の低下を抑制するため、物理的防除効果のある剤を組み入れる。			
	農薬飛散防止対策	農薬散布は、無風～弱風時に飛散が少ない散布器具を使用するなど、他の作物などに飛散しないように、適切な飛散防止策を講じる。			
	散布後の処理	散布器具、タンク等の洗浄を十分行い、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等に流入しないようにする。			
その他	作業日誌の記帳	各農作業の実施日、病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の名称、使用時期、使用量、散布方法等栽培管理状況を記録する。			
	研修会等への参加	県や農業協同組合が開催するIPM研修会等に参加し、情報収集に努める。			